優良住宅部品性能試験方法書

Methods of Testing Performance of Quality Housing Components

融雪システム

Snow Melting Systems

BLT SM:2026

２０２６年４月１５日公表・施行

一般財団法人 ベターリビング

Ⅰ．性能試験項目

優良住宅部品認定基準において、試験により性能等を確認する項目、試験方法等は下表によるものとする。

性能試験項目名	性能試験方法	備考	頁
融雪性能試験	BLT SM-01		1
騒音試験	JIS S 2093：2019（家庭用ガス燃焼機器の試験方法）の 11「騒音試験」		
	JIS S 3031：2025（石油燃焼機器の試験方法通則）の 26「騒音試験」		

Ⅱ　試験体

試験体の種別、形状、個数については、性能試験方法で示すとおりとする。ただし、個数の下限は当財団の判断によるものとする。

また、試験体は認定申請時提出された設計図書の図面、仕様書の内容と同一の物であるとし、差異のある場合は、追加試験の要請もあり得る。

Ⅲ　試験結果の表示

定量的に表示しうるものは図表化を図ること。また、外観観察については具体的に、何が、いつ、どのような状態になったかを試験目的にそって簡潔に記述すること。なお、試験体、試験装置は詳細図を添付し、また、試験結果を示すのに有効な場合は写真を添付すること。

融雪システム性能試験方法

(1)試験方法名称		融雪性能試験	試験番号	BLT SM-01	
(2)関連要求項目および性能		機能性・快適性の確保			
(3)試験の目的		融雪システムに求められる性能の把握 ①表示された融雪能力が発揮されているか。 ②システム全体から均一に放熱されているか。			
(4)試験体		自社の標準設置状態で設置されたシステム全体	個数	1	
(5)試験方法	(5-1) 試験機 試験装置 測定装置	・サーモグラフ、熱電対など。			
	(5-2) 試験体の前処理方法・条件	―			
	(5-3) 試験方法の詳細	・試験は、フィールド又はフィールドに相当する状態で、試験室において行う。 ・自社で定めた標準設置状態でシステムを設置後運転を行い、仕様書などに表示された融雪能力が発揮されているか、確認を行う。また、システム全体から均一に放熱されているか、測定を行う。 ・気温の条件：温度 0～-15℃。 　試験室で行う場合は、ダクト、ファン等からの気流が直接試験体に当たらない様に注意すること。 ・積雪の状況：フィールド条件による。 　試験室で代替物を使用する場合は、申請されたシステムにより適切なものを選定する。 ＜融雪能力＞ ・温水循環式の場合(ヒートパイプ式を含む)：屋根融雪部の循環配管の入口及び出口温度を測定し、循環流量より熱量換算する。(kJ/㎡で表示) ・電熱式の場合：ヒーター容量、ピッチ、消費電力量からエネルギー換算すること。(試験は行わなくてよい。) ＜放熱の均一性＞ ・システム融雪部から均一に放熱されているか、融雪部表面温度をサーモグラフ･熱電対などを用いて測定する。			
(6)試験結果の表示		(1)熱量換算したデータ、エネルギー換算したデータ。 (2)サーモグラフ･熱電対などを用いて測定したデータ。			
(7)要求性能		(1)表示融雪能力に対して±10%以内であること。 (2)システム全体から均一に放熱されていること。			
(8)注意事項		―			